裏面の決算内容もご覧ください

2020年 10/11 版

日本共産党　目黒区議会議員

こんにちは

お芋の「芋」に3本「川」
１００％「ゆうき」

57号

芋川（いもかわ） ゆうき 区政報告

住所：目黒区南3丁目在住　TEL： 090-4206-2048
ツイッター・facebook公開中！お問い合わせ✉＜imokawa007@gmail.com＞

めぐろ区　画期的陳情採択！

パートナーシップ制度導入に関する陳情

陳情要旨

２０２０年３月、目黒区のいわゆる男女平等参画条例が、名称も新たに「目黒区男女が平等に共同参画し性の多様性を尊重する社会づくり条例」といて改正されました。性の多様性の尊重を前面に打ち出した今回の条例改正は、目黒区に関わるすべての人に安心をもたらし勇気を与えるものに違いありません。

もっとも、性の多様性が真に尊重される地域社会であることには、異性カップルとともに同性カップルもまた、その関係を自治体から承認され尊重されることが不可欠です。異性カップルと違い現状婚姻ができない同性カップルは、同性カップルであることを明かした上で、住宅を借りることや購入することに困難がある、病院での付き添いや説明を受けることに困難がある、地域社会の活動に参加することに困難がある、カップルでの子育てに不安がある等の様々な困難や不安を地域生活においても抱えています。こうした困難や不安を解消する施策として、他自治体が導入しているいわゆる「パートナーシップ制度」は極めて有益です。自治体が双方の性別に関わりなくカップルの関係を承認することで、区民や事業者の性の多様性の理解が進み、すべての人の安心感の回復・増強に繋がる実質的な効果が見込まれます。

目黒区にも一定数の同性愛者・両性愛者が現に生活し、納税しています。近隣区では同様の制度が導入済みであり、それにより自分らしく誇りをもって暮らしている同性カップルが増えているのに、目黒区では同制度がないために、同性カップルは不安な状況に置かれたままです。

陳情内容

「目黒区男女が平等に共同参画し性の多様性を尊重する社会づくり条例」に基づく性の多様性を尊重する社会づくりの取り組みとして、すべての人の性的指向と性自認（SOGI）が尊重されるパートナーシップ制度導入に向けた協議を開始してください。

採択と賛否

採択については以下です。　「　」は賛否人数

○共産　＝　採択　「5」
▲自民　＝　退席　（賛否表明せず）「9」
○公明　＝　採択　「6」
○フォーラム目黒（立憲・無所属）　＝　採択「4」
○新風　＝　採択　「3」
※無会派　＝　採択「3」岸、たぞえ、松田
不採択「1」川端
退席「1」白川
という賛否でした。

まだまだ陳情内容は「協議を開始してほしい」という内容ですから、具体化されるには時間がかかるかも分かりませんが、区の事業において今後「パートナーシップ」を踏まえた視点で検討していくことになるという点では本当に大きな一歩だと思います。２年前にほぼ同様な内容の陳情が出た際、反対をした無会派議員は今回は賛成に回りました。

議員として携わっている中で画期的な陳情採択に立ち会えたことも嬉しく思います。今後も、誰一人取り残さない社会の実現に向けて。地道に活動をしていきます。

決算特別委員会主な質疑・回答主旨

※質問
→質問に対する回答主旨　となっています。

１・公の施設使用料について
　※住区センターは現在使用制限があり、半数の人しか使うことができない。減額せよ。
→コロナ対策のため、制限をかけておりますので、減額はしません
　※コロナ対策をしっかり行った上で利用人数制限や一部使用不可の施設を緩和など行うよう検討せよ。
→検討していく
　※再質問：条例には「区長の判断で減額など行うことができる」とあるこの解釈をもって減額を行っていかないのか。
→検討の範囲にはなるが、今すぐに対応というものではない

２・国民健康保険料について
　※コロナの減免（一般質問）が行われていますが、通常減免の減免の実績はもっと上げるべきではなかったのか。
→可能性はあるので、区民からの連絡があった際は丁寧に対応する

３・医務について（目黒区の医療）
　※コロナの治療で大切なことは区内病院と近隣病院の連携である。区民の治療状態や患者受入れのための連携はとれているのか。
→患者受入れは都と連携をとり対応できている。区民の治療状態は保健所で保健所で把握している。
　※２０２５年に向けて国は病院のベッド削減に動いている（地域医療構想）この情報を区でしっかりとつかんで研究し、都に意見を上げるべきではないか。
→現在、都と区で協議会が開かれている、その際、区の意見は伝えている
　※東京都が行おうとしている都立病院・公社病院の独立行政法人化について、区民の利益を考えた立場で都に要望を上げていくべきではないか。
→そういった場がない、あったら要望を上げる
　※再質問：大阪で行われた公立病院の独立行政法人化は結果、黒字化はしたが、人件費の圧縮と医療者の賃金形態の後退、住民サービス低下という事実を招いた、都立病院の利用者は区民でもある。基礎自治体として区の意見要望を伝えよ。
→都が行う独立行政法人化は区民サービスの低下にならないと信じている

４・聴覚障害を持った方に対する対応について
　※区が行う、手話通訳者派遣事業について、実績が近年減っている。もっと周知などを行うことが事業の拡充と社会の理解にもつながると思うがどうか
→必要な方にしっかりと届けば問題ないと思っている。

・・・お詫び・・・

先日10月3日より、二次販売が行われました。めぐろ地元のお店応援券について・・・
「もっと早く情報を知りたかった」「区民に対する先行販売があったのであれば（8月申込み）しっかりと周知してほしかった」「10月3日に並んだけど結局購入することができず遺憾だ」といったお言葉やメールをいただきました。3日当日、販売所まで連なる行列をみまして、私自身も痛感しました。一部の店舗でしか使うことはできないものですが、みなさまの利益になる内容をしっかりとお届けできず大変申し訳ないことでございます。以後気を付けます。　芋川